



今から2,000年程昔のローマ帝国時代に建設された水道橋、南フランスのポン・デュ・ガール（ガール橋）です。地中海に流れ出すローヌ川の支流ガルドン川に架かっています。同様のローマ帝国時代の水道橋は、スペインのセゴビアやトルコのイスタンブール他にも残っていますが、それらの中でも最大のものとこのことです。1985年に世界遺産登録され、フランス政府も「フランスの偉大なる景勝地」に指定しているそうです。

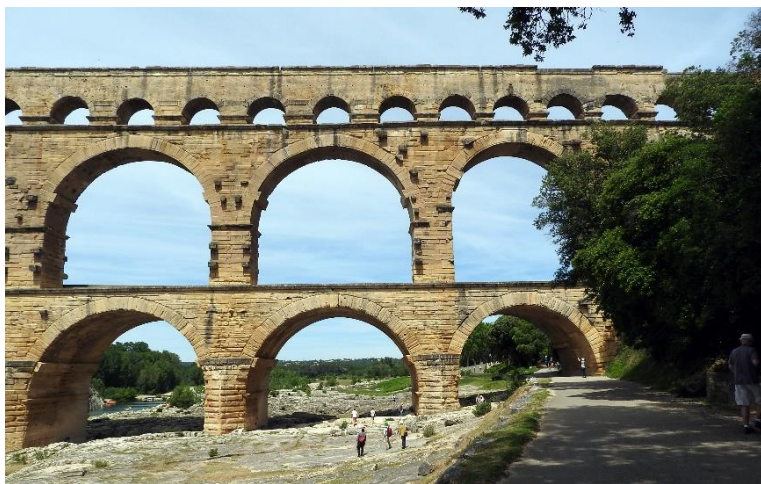
3層のアーチ構造で、1層目は6つのアーチで長さ142m・幅6m、2層目は11のアーチで長さ242m・幅4m、3層目は35（当初はもっと長くて47）のアーチで長さ275m・幅3m、3層目上部が導水路になっています。3層それぞれの高さは1層目22m・2層目20m・3層目7mで、計49m（ガルドン川の最低水面から）と、現存するローマ帝国時代の水道橋の中で高さも最大とのことです（セゴビア水道橋の高さは30m）。ポン・デュ・ガールの南西20km程のニームに上水を供給する為に、北西12km程のユゼスのユールの泉から全長50km程（直線距離20km弱）の導水路を、その途中で川を渡るために水道橋も建設されたという訳です。水源から終点までの高低差は12m（17mとの説もある）しかなく、平均でも傾斜は緩いのですが、この水道橋の高さを抑える為に直前のエリアで傾斜をきつくして、その後はさらに緩い傾斜で建設されています。橋の部分は275mで僅か2.5cmの勾配とのことです。江戸時代に築造された玉川上水が全長42.7km・高低差92.3mとのこと。これと比べてもこの導水路の勾配の緩さがわかります。橋の下の川底は土や砂ではなく岩盤ですが、地盤や構造物の変動があれば、勾配も変わってしまいます。6世紀まで5百年もの間、水を流し続けられたことは、設計・施工の確実さの証だと思いました。1日2~4万m<sup>3</sup>の水を送水していたとのことです。



水を確保する別の手段が出来てきたのか、整備の手が掛けられなくなって詰まって導水路としての機能をなくしてからは、人が渡る単なる橋として使われてきたそうです。18世紀には1層目の高さでガルドン川下流側に添わせて車道橋が建設されています。19世紀ナポレオン三世の時代にも改修されているとのこと。



ガルドン川上流側右岸より（水道の上流は左）



ガルドン川下流側左岸より



上流側左岸より



上流側右岸より



足場用突起も残っている



併設された車道橋

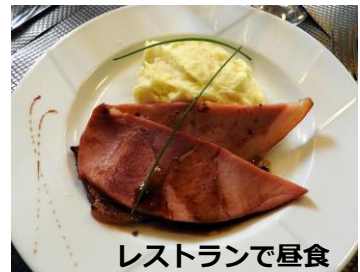


1層目のアーチに合わせて車道橋を増設

周辺には、ミュージアム（左岸）やカフェ、レストラン（右岸）もあり、演劇や音楽祭、展示会、サーカス、花火等々、次々とイベントも組まれているようです。夏には水辺のレジャーを楽しむ地となるそうで、5月でも河原に水着姿の人も見られました。レストラン等の近くには、かなり大きな樹木の並木もあり、心地良い日陰を作っていました。



河原はイベントや水辺のレジャーに



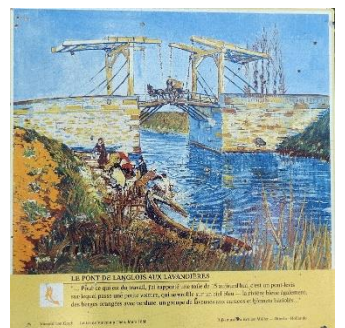
レストランで昼食

すぐ下流の右岸には、岩壁にえぐれた洞窟があり、「洞窟 先史時代 シェルター トナカイ時代」との看板がありました。「トナカイ時代」を調べてみますと「後期旧石器時代」の意味で、この辺りには、ネアンデルタール人とホモ・サピエンスが重複していた時代ようです。



蛇足ながら、橋つながりで、周辺の2か所の写真も紹介します。一つ目は、ポン・デュ・ガールの東20km程の「アヴィニョンのサン・ベネゼ橋」です。「アヴィニョンの橋の上で」という歌の、あの橋です。14世紀に70年間程教皇庁となっていたアヴィニョンですが、それよりは少し昔の1185年に、長さ920m、幅4m、22連アーチの橋がローヌ川に掛けられ、1226年レイ八世の攻撃で4分の3が破壊されたそうです。その後再建はされても一部が洪水で流されるなどを繰り返し、17世紀には修復を中止し、4つのアーチと橋上の聖ベネゼを祀るサンニコラ礼拝堂が残った今の形（左岸から200m程のみで中洲に渡ることもできない）になっています。橋の上では誰も踊ってはいませんでした。

もう一つは、ポン・デュ・ガールの南南東35km程の「アルルの跳ね橋」です。「ゴッホの跳ね橋」のモデルはアルル郊外の運河に架かったラングロワ橋でしたが、それが1930年にRC造の橋に架け替えられてしまったので、アルル市街から南2km程のこの場所に1960年に復元されたそうで、「ファン・ゴッホ橋」とも呼ばれている橋です。観光地になっていますが、絵とは周辺の景色も違ってきます。この原稿を書きながら、旧ラングロワ橋がどこにあったのかを調べましたが分かりませんでした。そこでここだったのではないかといいところを、Google mapで探してみました。同じ運河の少し下流です。ストリートビューで橋の袂の遊歩道・自転車道に「ファン・ゴッホ橋 1.7km」の案内板が見えます。果たして真相は如何に？ ご存知の方がいらっしゃいましたら、教えてください。



(写真撮影：2017.05.20～21)

< グーグル地図参照 >

- ポン・デュ・ガール <https://www.google.co.jp/maps/@43.9474769,4.5316879,15.84z>
- ニーム（導水路終点） <https://www.google.co.jp/maps/@43.8423784,4.3552174,18.41z>
- ユゼス（ユールの泉） <https://www.google.co.jp/maps/@44.0183503,4.4292759,16.92z>
- サン・ベネゼ橋 <http://www.google.co.jp/maps/@43.9547501,4.8004774,16.02z>
- ファン・ゴッホ橋 <https://www.google.com/maps/@43.6573748,4.6181552,16.38z>
- 旧ラングロワ橋か？ <https://www.google.com/maps/@43.6433291,4.6279748,17.29z>